クマ対応マニュアル

第１版

2026 年５月３１日　更新

仙台市泉岳自然ふれあい館

指定管理者　株式会社オーエンス

目次

Ⅰ　対策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1　ふれあい館の対策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　学校や団体等の対策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3　市民キャンプ場の対策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅱ　医療関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅲ　通報機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅳ　クマに関する情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅴ　泉ケ岳周辺クマ目撃情報・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅵ　参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅶ　別紙資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

Ⅰ．対策について

１　オーエンス泉岳自然ふれあい館（以下「ふれあい館」という）では市民キャンプ場含む敷地内（別紙参照）において下記の対策を講じます。

（１）　干渉地帯の整備
定期的に下草を刈払い、クマと人が至近距離で遭遇しないように見通しを確保します。

（２）　侵入防止・警告
敷地境界付近に、動物が嫌がる音波や音、光を発する装置を設置します。

（３）　巡回・追い払い
定期的に敷地周辺を巡回し、クマよけフォーン等で追い払いを行います。

（４）情報提供
登山者などからの目撃情報を集約し、ＨＰや館内の休憩コーナーなどに速やかに掲示したり、お問い合わせに対応いたします。加えて、敷地内の境界付近には、動物感知センサー付きカメラを設置し、クマの出没状況の把握に努め、対策に生かします。

２　学校や団体等には下記の対策を講じます

（１）　情報提供と活動変更の相談
クマの目撃情報を提供し、状況に応じて活動変更の相談を行います。

（２）　敷地内で実施できる活動プログラムの追加
館内や敷地内で出来る活動プログラムは１８種類用意していますが、新たにプログラムを追加しましたので、学校の実態に応じてご相談ください。

（３）　貸与物（熊すず以外は１団体１個貸与）
① 鳴り物
クマよけフォーン（犬の声・猟銃の音・爆竹の音・ライト・ＳＯＳ音：充電式）
エアーフォーン（手動式）
クマすず
② クマ撃退スプレー（使用時有料）

（４）　登山やハイキングを行う場合の注意点
児童生徒の安全確保が難しいと判断される場合は、ためらわずに活動の中止や変更（雨天時を想定した代替活動への切り替え等）を行うこと（令和８年４月２４日付教育指導課の通知より）

（５）　登山やハイキングの実施について
①クマを寄せ付けないために
ア）先発隊がクマよけフォーン等を鳴らして、クマよけを行ってください。
イ）本隊は、クマすず等の鳴り物を携行するとともに、積極的に会話を楽しんだり声を上げたりして、自分たちの存在をアピールしながら行動をしてください。

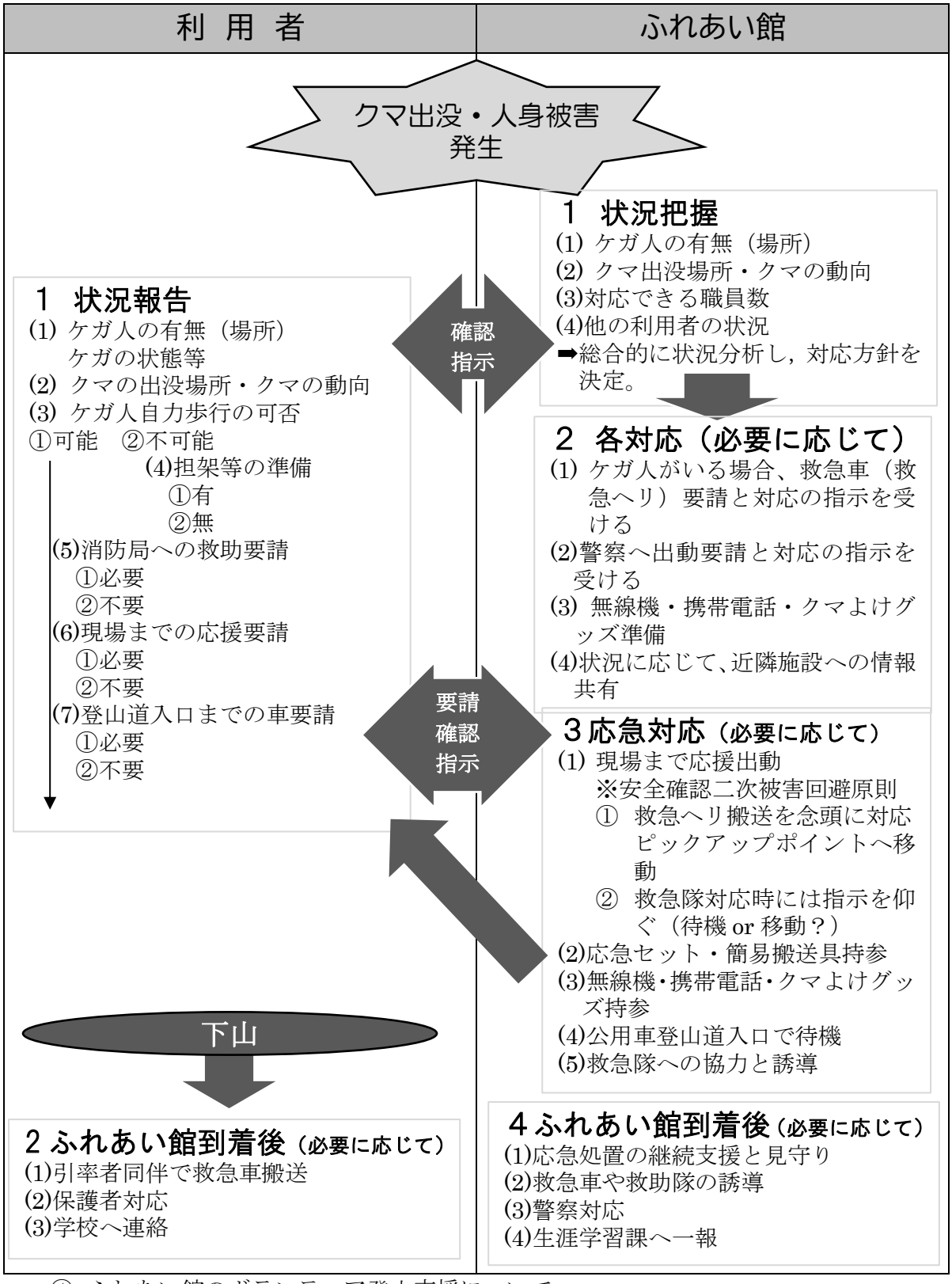
②クマと遭遇した場合
ア）遠くにクマを見つけたら
・クマを驚かさない、興奮させない
・落ち着いて騒がない
・背中を見せて走り出したりしない
・ゆっくりその場を去る OR クマが立ち去るのを待つ

イ）クマが近づいて来たら
・背中を見せずに後退り
・最悪の事態では、リュックを背負ったまま腹ばいで頭部を守る体制をとる
・引率者は、クマ撃退スプレーを準備し、発射できる体制を保持

ウ）登山の継続・中止の判断
・クマの動向や被害の状況等を勘案し、ふれあい館と相談の上で決定

③ 登山やハイキング等時のクマ出没時の連絡体制

学校・団体の対応フローチャート



④ ふれあい館のボランティア登山支援について

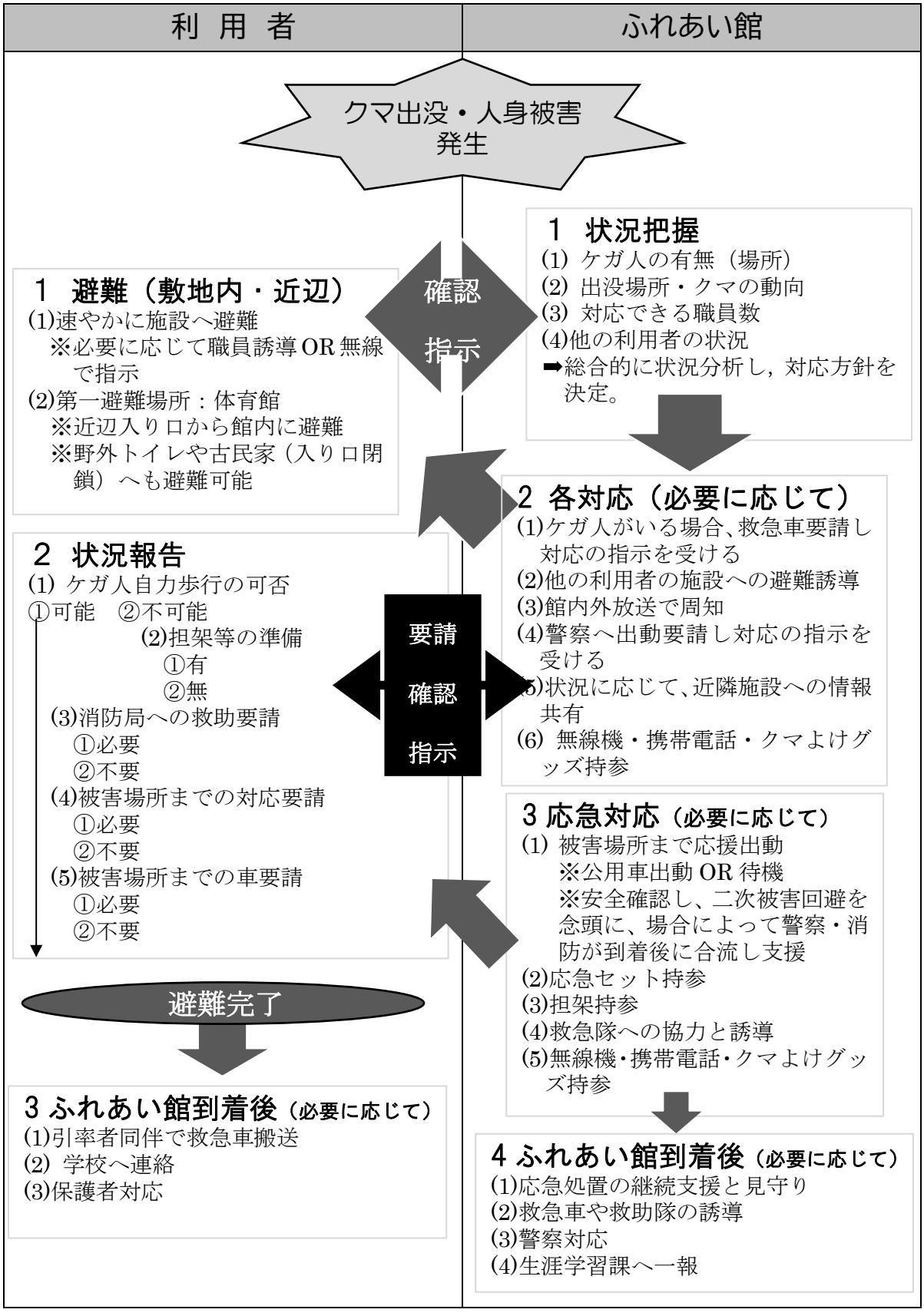
ボランティアの登山支援はこれまで通り実施しますが、役割は、あくまでも道案内や自然観察指導であり、クマ対策の支援はありませんのでご承知ください。尚、職員の同行登山につきましても、公道である登山道の安全管理上の観点から実施しておりませんので申し添えます。

（６）ふれあい館の敷地内や近辺での活動について

① ふれあい館敷地内では、前述のとおり巡回等のクマ対策は講じておりますが、万全ではありませんので、クマ遭遇時は下記の対応をお願いします。

② ふれあい館敷地内（近辺）活動時のクマ出没時の連絡体制

学校・団体の対応フローチャート



③ ふれあい館の利用制限について

クマの出没状況によって利用者の安全確保が困難と判断した場合は、仙台市教育委員会と協議の上、利用制限（例：館内利用は可・敷地内活動は不可等）する場合がありますのでご承知ください。

３　市民キャンプ場では下記の対策を講じます

（１）干渉地帯の整備

定期的に下草を刈払い、クマと人が至近距離で遭遇しないように見通しを確保します。

（２） 侵入防止・警告

敷地境界付近に、動物が嫌がる音波や音、光を発する装置を設置します。

（３）巡回・追い払い

定期的に敷地周辺を巡回し、クマよけフォーン等で追い払いを行います。

（４）情報提供

登山者などからの目撃情報を集約し、ＨＰや館内の休憩コーナーなどに速やかに掲示したり、お問い合わせに対応いたします。加えて、敷地内の境界付近には、動物感知センサー付きカメラを設置し、クマの出没状況の把握に努め、対策に生かします。

（５）利用者への注意について

①ゴミの管理

ア）テント外に生ごみや使用した食器類を放置しないでください。

イ）生ごみは密閉した容器に収納し、臭いの強い食器は洗浄してテント内に格納してください。

ウ）生ごみ等の保管はテントより車内が有効です。

② クマの活動時間

クマは早朝と夕方に活動が活発になりますので、朝や夕の散策等は避けてください。

③ クマを見かけたら

ア）遠くで発見した場合は、慌てず静かにその場を離れてください

イ）近くで遭遇した場合は、目を離さず、背中の見せずにゆっくり後退してください。走って逃げるのは厳禁です。

ウ）子グマ発見の場合は、近くに母グマがいるため、絶対に近づかずに速やかに立ち去ってください。

エ）避難場所はふれあい館です。テントサイト隣接のトイレやシャワー室も避難できます。

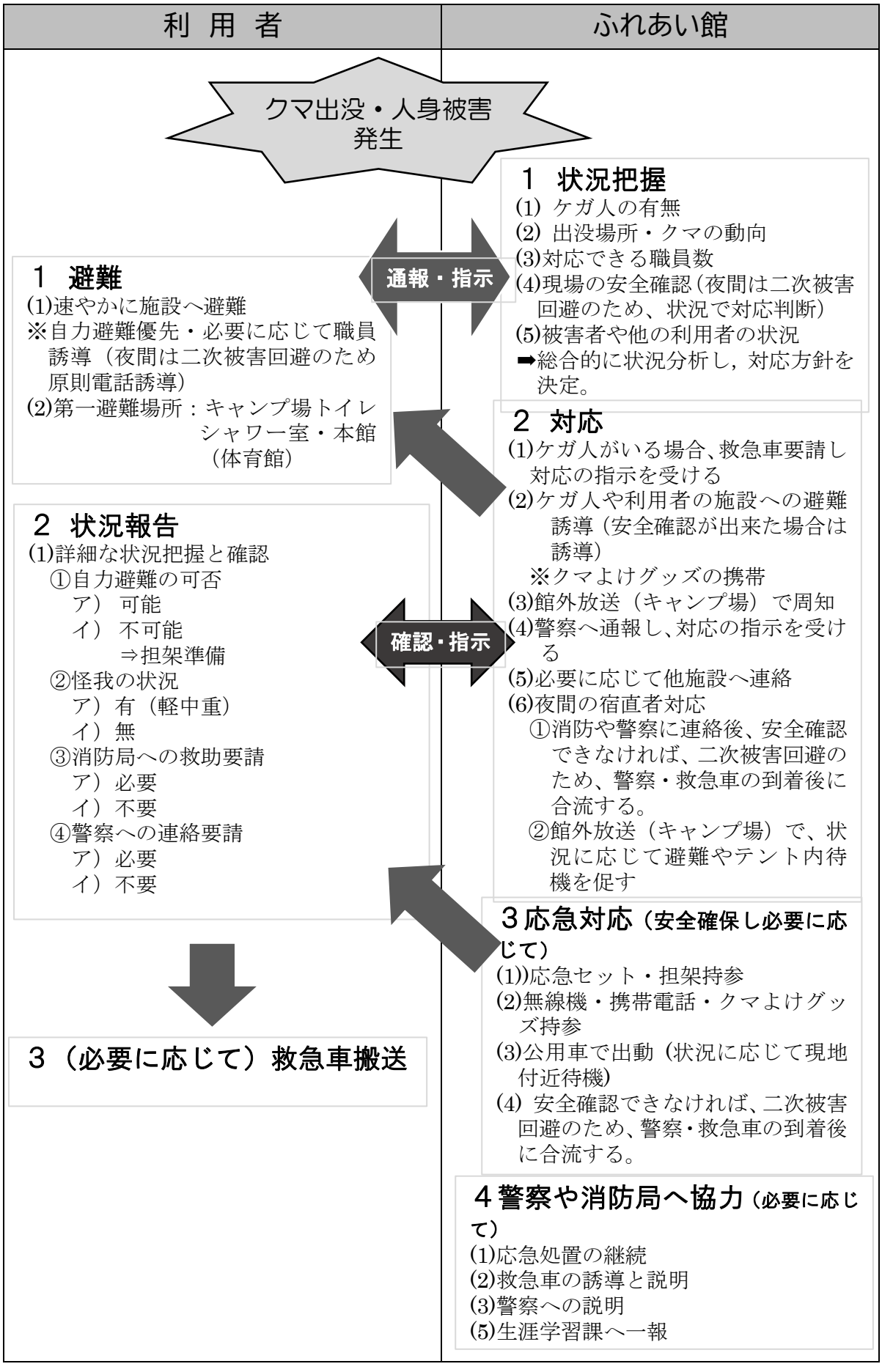
オ）クマを見かけたらふれあい館（０２２－３７９－２１５１）連絡し、状況に応じて速やかにふれあい館や隣接のトイレ等に避難してください。次項のフローチャートに従って対応願います。

（６）市民キャンプ場の閉鎖について

クマの出没状況によって利用者の安全確保が困難と判断した場合は、仙台市教育委員会と協議の上、市民キャンプ場の閉鎖を行うことがありますのでご承知ください。

（７）クマ出没時の連絡体制

市民キャンプ場利用の対応フローチャート



Ⅱ　医療機関

（１）ＪＣＨＯ仙台病院（旧仙台社会保険病院）

仙台市泉区紫山２－１－１（０２２－３７８－９１１１）

（２）松田病院
仙台市泉区実沢立田屋敷１７（０２２－３７８－５６６６）

Ⅲ　通報機関

（１）救急関係

① １１９番通報
② 根白石出張所　仙台市泉区小角字館前１２－１（０２２－３７６－８８７０）

（２）警察関係

① １１０番通報
② 根白石交番　　仙台市泉区根白石字下町４２－１８（０２２－３７９－２１２１）

（３）オーエンス泉岳自然ふれあい館

仙台市泉区福岡字岳山９－８（０２２－３７９－２１５１）

Ⅳ　クマに関する情報

仙台市ホームページ「ツキノワグマ対策について」
宮城県ホームページ「令和８年度クマの目撃情報」

Ⅴ　泉ケ岳周辺クマ目撃情報

最新のクマ目撃情報は HP に掲載いたしますのでご確認ください。あわせて、ふれあい館周辺の監視カメラ情報も掲載しています。

Ⅵ　参考資料

クマに遭(あ)わないようにするには

★１．まず，クマのことをよく知る。

冬，クマは木や岩などの下の穴で「冬ごもり」をするが，爬虫類などの「冬眠」とは違い，完全に眠っているわけではなく，体温はあまり下がらない。中には，冬ごもりをせずに歩き回るクマもいるといわれている。

春，冬ごもりから目覚めたクマは，芽吹いた木々の芽や草の葉を食べるために動き回る。また，母グマは冬ごもり中に子どもを産んでいるため，雄よりも少し遅れて穴から出てくるが，子連れということから，より危険な状態といえる。人間の方も山菜採りに夢中になるなどして，クマの生息地に知らず知らずのうちに足を踏み入れ，クマの気配に気づかないままでいることがあり，注意が必要である。

夏は緑豊かな季節であるが，ドングリなどの木の実はまだ熟しておらず，クマにとっては以外に食べ物が少ない時期である。アリのような昆虫やキイチゴ類などを食べてしのいでいるが，ゴミにつられて人間のいるところまで出てくることもある。

秋のクマは山野を活発に歩き回り，ブナやミズナラ，クリなどの木の実を大量に食べ，冬ごもりに備えて体に脂肪を蓄える。人間も，紅葉狩りやキノコ狩りで山野に分け入る機会が多いので，注意が必要である。山の木の実が不作だった年は，作物や柿の実などを食べに人里に下りてくることがある。芋煮会などの残飯が狙われることもあるので，後片付けをしっかりし，クマをおびき出すことのないようにすべきである。

最近では，林業の後継者不足で里山が荒れ，山と里との境界がなくなったことから，年間を通じてクマの出没件数が増加している。

以下に現在一般的にいわれているクマの予防策や対処方法を紹介するが，クマに対しては「これが絶対」というものはない。我々人間の方も自然に対して謙虚な気持ちを持ち，残飯や空き缶等を捨てないなど，マナーを守っていくことがクマとの共存のために大切である。

★２．一番大切なこと・・・クマに遭わない工夫をする

当たり前の話ではあるが，クマに遭わなければ被害に遭うこともない。**オオカミが絶滅している日本では，クマが唯一の野生の猛獣である。**出会うのは動物園だけにしたいもの。

① 地元の関係諸機関（役所や警察，ビジターセンター，自然の家など）から最新のクマの出没情報を手に入れ、危険な場所には近づかない。

② ブナやミズナラなどの落葉広葉樹林帯（秋に葉を落とす木が生えている所　※）では特に注意。（クマは春は若芽、秋はドングリを食べる）**※　泉ケ岳も該当する**

③ 　クマは聴覚（耳のはたらき）が発達しているため，鈴や笛，ラジオなど，大きな音の出るもので人間がいることを知らせ，クマの方から遠ざかってもらう。（爆竹は短時間しか効果がない）**野外活動の際は単独行動を避け，グループで会話しながら行動するとよい。**

④ クマの嗅覚（鼻のはたらき）は動物の中でも超優秀で犬の７倍と言われている。ゴミの後始末はきちんとすること。（ゴミは絶対持ち帰り）

⑤ クマの足跡や爪痕、糞などを見つけたら引き返す。声や音のする方に近づかない。

★３．万が一出会ってしまったら・・・慌てず，騒がず，まず落ち着くこと

自然の中で活動するとき，１００％クマに出会わない・襲われないということはあり得ない。出会ったときに備えて，どうしたらよいかを知っておくことが大切である。

（１）クマとの距離が離れていて，人間がいることに気づかれていない場合

○　その場から静かに立ち去る。

※　以外に動きは素早く，全力で走ると時速40km（100m走７秒台！）にもなり，人間の足で

はとても逃げ切れない。木登りや泳ぎも得意だということを忘れずに。油断は禁物。

（２）突然間近でクマと出会った場合

① 敵ではないことをクマに伝えるため，動かずにじっとしている。
② クマの方が先に逃げるまで静かに待つ。（逃げてくれないとき･･･→★４．）
⑤ 絶対にやってはいけないこと５つ（クマを刺激して攻撃を誘発させる可能性が高い人間の行動）

Ⅰ. 急に立ち上がる
Ⅱ. 大声で叫んだり大きな音で威嚇（おどすこと）したりする
Ⅲ. 物を投げつける
Ⅳ. 背中を見せて走って逃げることは危険（クマは反射的に追いかけてくる）
Ⅴ. 子グマだからといって不用意に近づくのは危険（近くに必ず母グマがいる）

★４．それでも，不幸にしてクマが攻撃してきたら・・・

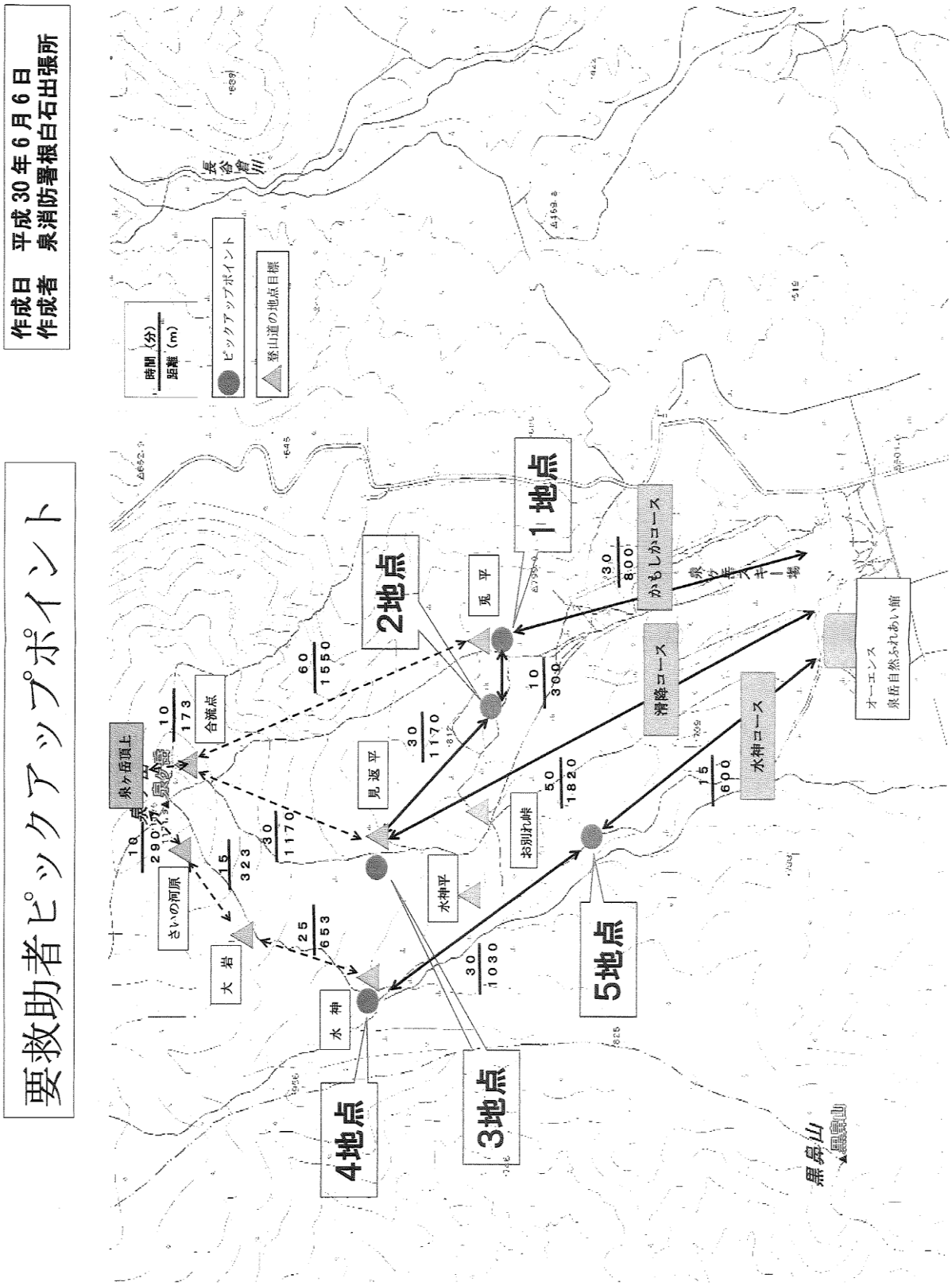
クマが攻撃をやめて立ち去るのを待つ

① 荷物や衣服をクマと人間の間に置き(投げつけないこと)，クマの関心が物に移った隙に静かに逃げる。
※ 物よりも人間の方に興味があるクマもいるので，万全とはいえない。
② 攻撃されたら，うつ伏せで体を丸くして（顔面や腹部を保護），腕を首筋に回す（後頭部から頸椎を保護）。
※ クマは最初の一撃で立ち去ることが多いといわれているので，ダメージの少ない体勢をとる。
※ クマは好奇心が強いので，死んだふりをすると噛まれたり引っ掻かれたりすることがある。
⑥ ポンチョやビニールシート，傘を開いて助かった例もあるが，クマに出会ったとき偶然手に持っていなければ使えない。
⑦ 鉈(なた)などで攻撃して助かった例もあるが，普通の人はやめた方がよい。(手負いのクマは凶暴になる場合もある)

Ⅶ　別紙資料

（１）ふれあい館敷地図（動物監視カメラ・害獣撃退装置配置場所）

（2）救助ヘリコプターのピックアップ地点

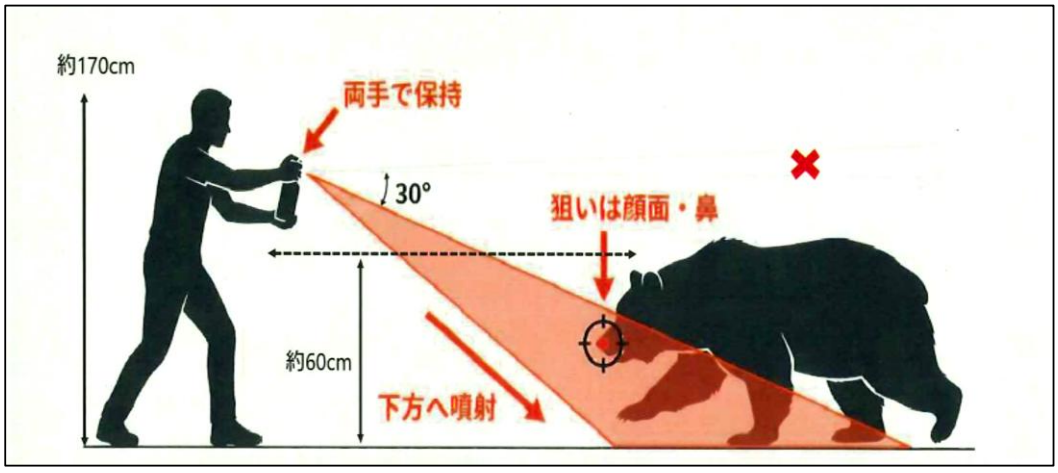


ふれあい館貸与　UDPA 製　クマ撃退スプレー

瞬時に取り出せるようザックにしまわず、ベルトなどに装着

枝などにクリップを引っかけないように注意！

噴射時
クリップを外し、レバーを押す

クマがいる　もしくは　いそうな気がする

地面に向けて噴射　下方を意識　　有効射程距離 12m 以内＋噴射時間 7 秒程度（本製品）